

## 縄跳びで集団を鍛えろ〜応援しよう、教えよう

岡 篤（兵庫）

はじめに〜半分は教科の内容で…

私が子どもに向かつてよく言うことの一つに次のようなことがあります。

「勉強の半分は教科の内容です。計算なら計算ができるように、ポートボールならポートボールが上手になるようにということです。でも、あとの半分は、がんばって苦手なことも練習が続けられるようになったとか、友達と協力してゲームができるようになるとかそういうことがあります。」

つまり、半分は教科の内容、あとの半分は生徒指導とか学級経営とか、あるいは人格の完成を目指すといったことになります。クラスについても同じようなことを言っています。

「みんながいるからがんばれたとか、できるようになったとか、そんなクラスだいいですね」

子どもによくいうということは、できて

いないということでもあります。

また、私自身への戒めでもあります。

この意識を持っているかどうかで、やはり実践に違いが出てくるからです。

### 縄跳びの時間に

以前の広場でも書いていますが、私は縄跳び指導にこだわりを持っています。方法は、年によりクラスにより少しずつ変わっています。

今年度は、学校で取り組んでいる「縄跳び検定」を中心に進めています。8級から始まって1級まであります。CDに級ごとの技の指示やリズムの音が入っていて、それを使うことでスムーズに進めることができます。

2学期の取り組みの中で集団について考えるきっかけになった場面があったので、それについて触れたいと思います。

### 縄跳び検定で

2学期のやり方は、体育のはじめに、縄跳び検定のCDを2回流すという方法でした。クラスでは6級の子が一番下の級だったので、6級から1級まで順に流していきます。1回目は、自分が挑戦している級だけで跳び、2回目はできるだけたくさん跳ぶ（失敗しても続ける、合格していない級でも挑戦する）ということにしてみました。

原則として、体育の時間は運動量が多い方がよいと考えています。その発想からいくと、1回目もどんどん跳ばせた方がよいようにも思えます。最初はそうやっていました。

しかし、そうすると、誰がどの級に挑戦しているのか、一目では分かりません。私は、名簿に全員がいつ、どの級に合格したかを記録しているので、それを見れば分かるのですが、いちいち名簿を見ながら確認しているようでは、実践的ではありません。どうも苦手な子の伸びが遅い気がしました。全体にまぎれると、どうしても苦手な子が練習を避けがちになります。縄を調節し

ているふりをして跳ばなかったり、他の子としゃべっていたりという具合です。これでは、上達が遅いはずですよ。

そこで、1回目は、挑戦中の級のときだけに跳び、他の子は座っていることにしました。

### 無駄な時間にならないように

これで、1回目の挑戦のときは、他の子からも教師からも注目されている中で跳ぶことになりました。多少は改善しました。

ただ、別の問題が出てきました。そのときの級に挑戦しない子は座っていることになりません。座るとすぐに砂を触る子が出てきます。仲のよい子とならんでしゃべり出す子もいます。体育としては無駄な時間です。

そこで、私は次のようにいうことにしました。「座っている人は、一生懸命応援しなさい。それと教えてあげられることがあったら覚えておいて、練習の時間にそれを直接言っただけなさい」

そうはいっても、すぐには変わりません。砂を触ること、おしゃべりをするのがく

せになってしまっているからです。

根気よく、「さあ、誰を応援してる?」「何を教えてあげるかな?」と声をかけ続けました。

すると少しづつ「がんばれ」「もうちょっと」と声をかける子が増えていきます。その中で合格した子には自然と拍手がわきます。応援してもらって合格した子は次には、他の子を一生懸命に応援するようになります。

### 教えることで学ぶ

子どもには、「教えてあげなさい」といってしまいました。しかし、正直なところ、子ども同士で教え合う効果はあまり期待していませんでした。砂をいじったり、しゃべったりするのを防ぐための手立てという意識の方が強かったのです。

子どもは教えることは好きですが、相手の状態に合わせたアドバイスというのはなかなか難しいものです。自分が教えたいから教えるというのでは、相手によっては受け入れにくい場合もよくあります。

苦手な子は少し教えたくらいではできる

ようにはなりません。教えて練習して、励ましてまた練習して、といったことをくり返してやると少しづつ上達します。これを踏まえて教えるというのはかなり高度な要求です。

ところが、応援をすることが定着してくるとともに、教え合うことの効果が出始めました。

できない子の方から、「かえし横ふりとびを見せて」といった声が出るようになったのです。教える方だけでなく、教わる方も前向きになってきたわけです。そうになると、応援にもいっそう力が入るといい好循環が見られました。

### おわりに、改善は続く

声をかけ続けるといふ平凡な方法が意外と効果があるということを確認しました。ただし、3学期からはまた少し練習方法を変える予定です。結局、苦手な子の大きな課題は二重跳びだということが確認できたからです。現在の方法に二重跳びの練習の比重を増やしたやり方をどのように入れていくかを考えているところです。